

施策評価シート（平成28年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	3-1	政策名	子育て環境の充実	政策の 目指す姿	子育てに喜びを感じ、安心して、健やかな成長を育んでいます	施策 主管課	こども課	施策主管 課長名	高橋 靖
	施策No.	3	施策名	就学前教育の充実	施策の 目指す姿	保育園、幼稚園から小学校へスムーズな接続ができています	関係課名			
	現状と課題 ・市内には、公立15園・法人立20園の保育園と、公立2園・法人立7園の幼稚園がありますが、園舎の老朽化や入園者数の地域的偏りが見られます。 ・子どもたちの生活様式が大きく変化しているなか、車での移動やゲーム機での遊びの増加等による体を動かす機会の減少や、幼児の同年代や地域の人々と交流する機会の減少により、体力や運動能力、コミュニケーション能力の低下が見られます。 ・小学校入学後、新しい環境に馴染めない子どもや基本的な生活習慣が身についていない子ども、人の話を聞かない子ども等が見られます。									

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組実績

(1)保育・教育環境の充実 ○公立保育所、幼稚園の施設整備 ・安全、安心な保育・教育環境を保つため、定期的に施設を点検し、環境整備を行った。 ○公立保育所の再編 ・花巻市公立保育園再編指針及び花巻市公立保育園再編第1期実施計画に基づき3園(南城・日居城野・湯本)を民営化した。 ○私立幼稚園の振興に対する支援 ・私立幼稚園の運営を補助し、振興に対する支援を行った。	(2)就学前教育の充実 ○市内全園の保幼小体による就学前教育の推進 ・保育園・幼稚園・小学校の園長、校長による合同会議を開催し、幼児教育の理解を深め、連携強化を図った。 ○保育、教育の充実 ・保育士・幼稚園教諭が保幼小体研修に参加し、保育・教育の質の向上に努めた。 ○保幼小接続期カリキュラム実践等の保幼小の連携推進 ・保育園・幼稚園・小学校が連携して保幼小接続期のカリキュラムを実践し、小学校へのスムーズな接続を図った。 ○児童期の発達に対する適切な支援 ・ことばの表現能力に課題のある子どもを早期に発見し、発達の支援を行った。 ・幼児期の体力・運動能力の向上を図るためコーディネーショントレーニング教室を開催した。 ・少人数の保育環境にある5歳児を対象にして発達に必要な集団活動を体験する機会を設けた。 ○地域の人材の活用促進 ・食育や郷土芸能の伝承など、地域人材を活かした取り組みを行った。
--	--

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値区分	H23	H24	H25 (基準年度)	H26	H27	H28
小学校入門期(小学校1年生の4~5月)における学校生活への適応率	保育園・幼稚園から小学校における「保幼小接続期のカリキュラム」を活用し保育・教育の成果を示す指標	出典:こども課 小学校1年生担任アンケート 問:身支度ができる、集団行動ができる、学習のルールがわかるか。	%	目標値				85.0	85.0	85.0
				実績値	-	-	82.5	93.0	89.5	83.3
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
B	<p>■成果指標「小学校入門期(小学校1年生の4~5月)における学校生活への適応率」・・・【達成度b】</p> <p>・アンケートより「話をしっかり聞き、落ち着いて学習している」「友達や上学年の児童と仲良く遊んでいる」など、概ね学校生活に適応している子どもは8割程度であるが、気持ちの調整や集団行動に弱さが見られ、他者との関係を築く糧となる成長期のコミュニケーションが十分に取られていないことが要因と考えられる。</p>

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名	担当課	施策への貢献度	
	事業内容(実績)		直結度	成果
1	保育所保育環境充実事業	こども課	B	B
	公立保育園の保育施設環境整備(南城・笹間:外壁工事)等			
2-1	幼稚園教育環境充実事業	こども課	B	B
	幼稚園就園奨励補助や私立幼稚園運営補助を行う。幼稚園就園奨励費補助金交付人数 620人			
2-2	幼稚園教育環境充実事業	こども課	B	B
	公立幼稚園の教育環境整備(花巻:ホール床等改修)			
3	家庭教育力向上事業	こども課	A	B
	保幼小が連携した接続期カリキュラムの実施や学習参観及び保育参観の実施 保育園・幼稚園園長、小学校校長合同会議の開催(年2回) 保幼小研修会(年1回) 公開保育研究会(年2回) 保幼小が連携に関わる園や小学校の参観をした保育士と教諭の人数 延べ187人 給食参観した人数 38人			
4	はなまき保幼一体研修事業	こども課	B	C
	市内保育園・幼稚園の保育士、教諭を対象とした研修に外部講師を導入し、保育内容をさらに充実させる。 研修会参加人数 576人(保幼小連携研修、専門研修、公開保育等)			
5	幼児ことばの教室事業	こども課	B	B
	幼児ことばの検査及び指導の実施 ことばの指導実施幼児数 61人 相談対応件数 50件			
6	ニコニコ元気っ子事業	こども課	B	C
	幼児期での体力・運動能力の向上に取り組む COT教室参加園児数 1,766人			
7	公立保育園再編事業	こども課	B	B
	「公立保育園再編指針」及び「公立保育園再編実施計画」に基づく公立保育園の民営化移管 実施園 3園			
8	ニコニコ交流事業	こども課	B	-
	少人数の環境にある保育園児と同地域内での他保育園児との交流会 交流会参加児童数 264人(2地域 各5回開催分)			

5 施策を構成する事務事業の検証

(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)
なし

(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)

・子どもたちの体を動かす機会の減少により、体力や運動能力の低下が見られることから一定の方針に基づく体力向上に取り組む必要がある。

(新たに取り組むべき事業はないか)

なし

6 施策の総合的な評価

(課題)

・保幼小連携については保育園・幼稚園と小学校の更なるスムーズな接続のためのプログラムとして、平成26年度に作成したアプローチカリキュラムや平成27年度に作成したスタートカリキュラムを園や学校全体で活用していく必要がある。

・公立保育園の再編について、計画的に進めていく必要がある。

・就学後の学校生活に順応するための基礎体力が必要であるが、市内全体での就学前児童の実態が把握できていない。

(今後の方向性)

・教師個々ではなく、学校全体、園全体での取り組みとなるよう小中学校課や教育事務所と連携し、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの定着を図る。

・公立保育園再編指針及び再編第1期実施計画による民営化移管園の検証を行いながら、第2期実施計画の策定を行い再編を着実に進めていく。

・文部科学省による幼児期運動指針の推進を通じ、運動能力調査の方法等を統一することで実態把握が可能となるよう事業内容の構築を検討する。